

◆介護の仕事応援します!! という区の姿勢を

失業者が急増しているとはいえ、介護の仕事は、求人しても人が集まらない。やりがいを感じている、低賃金・重労働のため、続けられないという。今回の介護報酬の改訂も焼け石に水。インターンシップ（体験就労）や職員加配など、雇用対策として、区が応援しているという姿勢を示せないか。区：訪問介護員資格取得支援を始めた。新たな施策を積極的に打ち出したい。

◆介護度の維持あるいは軽減のためのモデル事業を

山口県の介護施設「夢のみずうみ村」では利用者の8割の介護度が軽減あるいは維持されているという。6割が男性。1日の過ごし方は本人が決める。賭け事もあり、「やりたい気持ち」を引き出す工夫が話題になっている。区でも事業者を募って、モデル事業として取組んだらどうか。区：各施設と情報交換や協議をしていきたい。



◆コミュニティ・ソーシャル・ワーカーの導入を

ごみ屋敷は、認知症や統合失調症など、孤独の問題と一体である。地域の住民が早めに気付いて行政と協力して地域の問題を解決するための専門家を配置したらどうか。豊中市では、ごみ屋敷のほか、高齢者サロン、子育てサロン、障がい者支援や多世代交流、徘徊高齢者支援など、きめこまやかに取組んでいる。区：先進事例を参考にして、社協とも協議し、検討していきたい。

◆荒川につくろう いのちの森

エコセンター開設記念講演で世界中に3000万本の木を植えてこられた植物生態学者の宮脇昭さんが「CO2削減のためにはまず、木を植えよう！大都会の荒川こそ森が必要ではないか。防火林としても優れている。幅50センチの土地でいい。木を3本植えれば森になる」と熱く語られた。区も真剣に取組んだらどうか。区長：できるだけ努力する。



||||| 要望しました

◆（仮称）荒川区自治総合研究所は徹底した情報公開を

財団法人にすると、行政改革の観点からは時代に逆行する組織拡大?! 幸福度についての指標など、中長期的な研究を行うという。取り組むからには、荒川区民の誇りとなる先進的な地方自治の研究を行ってほしい。情報公開を徹底して行うべき。

◆生活保護世帯 昨年比30%増への対応を

ケースワーカー1人当たり96世帯を担当している計算になるという。この不況の影響か、働き盛り世代が病気になって生活保護を受ける事例が急増し、高齢者の生活保護世帯もふえ、きめこまやかな対応が求められている。地域での見守り、介護サービスとの連携など、しっかり支援してほしい。

高齢者の住まい

火事になった群馬県渋川市の無届老人ホームで墨田区の生活保護の高齢者が亡くなられた。墨田区と同様に荒川区も無届けではないものの、102人の高齢者を都外の施設にお願いしている。都内（区外）171人 区内65人
3月に策定した住宅マスタープランによると、区内には12000戸の空き家があるという。実態調査を行い、安心の老後に備えて欲しい。

